

士別市朝日町 ～新規就農を目指して～



西川 尚吾 (にしかわ しょうご)

北海道札幌市出身。東京大学理学部生物学科を卒業後、同大学大学院に進学。2022年4月からは、士別市地域おこし協力隊の農業支援員に就任。主に農作業の請負を行う農事組合法人あさひにて、トラクター等の農業機械を操作するオペレーターとして研修中。新規就農し、大豆や小麦を中心とした畑作農家となることを目指している。

【士別市地域おこし協力隊に応募するまで】

私は札幌市の出身で、幼少期から自然の中で遊んだり、生き物と触れ合ったりすることが好きでした。それが原体験となって生き物の仕組みに興味を持ち、大学では生物学を専攻していました。卒業後に進学した大学院では、主に単細胞の藻類を用いて細胞分裂に関わる遺伝子について研究していました。当時は研究者を目指していましたが、大学院で研究する中で、フィールドに出て活動したいということ、生き物にまつわる幅広い現象について勉強したいということに気が付きました。そのとき、将来について考え直した結果、農業に興味を持ちました。農業は当然屋外での仕事を中心ですし、作物やその病害虫も含め、さまざまな生き物について知っていくことができます。それから大学院を休学して本州のキャベツ農家でアルバイトを経て、新規就農を目指そうと決意しました。

私が地域おこし協力隊に応募したのは、新規就農するためのルートとして一番いいと考えたからです。そのなかで、目指す農業のかたちと合致した研修を受けられる地域を探した結果、士別市に辿り着きました。士別市では農業の協力隊に対して門戸が広く募集されており、ここなら畑作農家としての新規就農に向けて研修を受けられると思い応募しました。

【士別市と朝日町】

士別市は道北の真ん中にある天塩川の源流のまちです。夏は昼と夜の寒暖差が激しく、冬は最低気温が-30℃近くなることもあるうえに雪も多い豪雪地帯です。農業と畜産が盛んで、羊が名産です。ほかにもスポーツなどの合宿を多く受け入れているまちでもあります。

私が実際に暮らしているのは士別の中でも朝日町という地域で、2005年に合併するまでは士別とは別の市町村でした。士別の中心部から車で30分ほどかかる小さなまちで、東京23区全体とさほど変わらぬ面積ですが人口は1,000人強しかいません。人口密度でいうと1万分の1しかないところに移住してきたと考えると、感慨深いです。

【協力隊としての活動】

基本的には農作業の請負を行うコントラクターの会社で研修してます。農家さんに委託された機械を持って行って、農家さんの代わりに農作業を行います。例えば、畑をロータリーで起こしてほしいと頼まれれば、



朝日町茂志利の牧草地と乾燥ロールを梱包するロールペーラー

トラクターにロータリーをつけてその圃場^{ほじょう}に行き、耕起作業を行います。作物は、主に小麦、蕎麦、大豆、牧草です。受託作業とは別に、会社でも大豆、牧草、ニンニクを作っていて、その作業もあります。冬になると、夏に使った機械を整備します。オイル交換や、ベルトやベアリングといった部品の点検、交換を行います。

私が協力隊として活動を始めてからもうすぐ1年半ですが、トラクターなどの操作にだいぶ慣れてきたと感じます。1年目はまず大型特殊、牽引、大型の免許の取得から始まりました。費用は協力隊の経費でまかなうことができ、農業に必要な免許を実費なしで取れたことは有難いと感じています。それからトラクターに乗るようになりましたが、はじめは操作を覚えることで精一杯でした。初めて触る機械ばかりで、先輩に教わったことをこなすだけで1年目は終わってしまいました。2年目は、1年目と作業しているときの感覚がだいぶ変わってきました。例えば、畑を起こしているときから播種^{はしゅ}から収穫までの作業をイメージできるようになりました。ほかに、畑を起こす機械でもロータリー、パワーハロー、ディスクハローなどの種類ごとに土のこなれ方が異なります。それぞれの圃場の状況を見ながらさまざまな機械を操作できるので、とてもいい勉強になっています。

研修とは別に、今年から別の協力隊員と2人で小さな畑をはじめました。1反ほどですが、自分たちだけで作物を作れるので学びが多いです。うまくいかないことも多いですが、それも実際にやらないと気づけなかったと思います。研修の後や空いている時間でやっているのになかなか多くの時間を割けていないですが、それでも手間暇をかけた野菜ができていくのを見ると嬉しく感じます。作っているのはカボチャ、サツマイモ、枝豆、ネギなどで、直売所や道の駅に卸しています。こういうところで売ろうとか、来年はこういう風にしようとか、2人でいろいろなことを話し合いながらやっているとワクワクしてきます。

【これからの課題と退任後の展望】

今後の研修で気を付けることとしては、まず安全に作業することがあります。機械に慣れてきたとはいえ、農業の場合1年で同じ機械を使うのは数週間ほどです。どの機械も冬の間は使っていないので、初めての気持ちで作業するように心がけています。そのうえで、もっとうまく操作できるようにならないといけないと感じます。農家さんに委託されて作業するので、この人に来てもらってよかったと思ってもらえるようにになりたいです。

協力隊でやっている畑では、来年は計画をもっと綿密に立てないといけないと思います。春先に畑を始められることが決まったこともあり、今年の計画では不十分でした。そのせいで作業が後手後手になってしまっているの、そこは来年の課題です。

今年2年目なので、協力隊としての残りの活動期間は1年半ほどです。そろそろ退任後のことを考えないといけないですが、正直まだ不透明なことが多いです。朝日町は居心地が良くてとても気に入っているのでは非ここで就農したいと思っていますが、自分一人で決められることではないので退任後すぐに就農できるかはわかりません。ただ、農業情勢も変わってきていますし、数年くらいのうちにはチャンスが巡ってくるんじゃないかなというのは体感であります。理想は1年半後に就農することなので、小さな面積でもそれが実現できるよう地域の中で動いていきたいです。とにかく、残り1年半の研修もそのあとも、楽しんで農業をやっていきたいです。



農業の協力隊員2人でカボチャやサツマイモなどの栽培を行っている圃場